

千葉

OA機器や測量機器の販売などを手がける千葉測器(千葉市)は、ドローン(小型無人機)を活用した建設現場などでの空撮サービスを始めた。工事現場で進捗を把握したり、公共施設や工場などが完成した際に記録を残したりするための撮影を手がける。年内にはドローンを使って測量を側面支援するサービスの事業化もめざす。

空撮サービスは同社が保有するドローン2機を使う。操縦技術をもった同社の社員が工事現場などに向き、ドローンに付属したカメラで上空から静止画や動画を撮る。

ドローンで建設現場空撮

千葉測器、サービス開始

進捗の把握・記録用に



ドローンで撮影した画像は地上でリアルタイムで確認できる

ドローンで撮影する画像は地上でリアルタイムで確認することができる。価格は条件によるが、1回のフライトで約7万円

ドローンで撮影する画像は地上でリアルタイムで確認することができる。価格は条件によるが、1回のフライトで約7万円

からとしている。昨年12月施行の改正航空法では、人口密集地域の上空などでドローンを飛ばすことが禁じられたが、国土交通相の許可があれば飛行させることができる。工事現場などの空撮写真が撮れば、全体の把握ができるため、工事計画などを立てやすくなる利点もある。

同社はドローンを使った測量支援サービスも事業化に向けた検討に入っている。例えば、空撮した画像データから画像解析ソフトを通じて3次元(3D)の位置情報を取得し、地上で測量したデータと組み合わせて建物の屋根まで含めた図面をつくるサービスなどを視野に入れている。

ドローン本体の販売にも年内をメドに乗り出したい考えだ。操縦方法の研修といったサービスもセットで提供し、建設会社や測量会社を中心に販路を広げる。同社の担当者「数年後にはドローンの技術向上に伴って活用が広がる可能性が高く、先行してノウハウを蓄積したい」と話す。